

石井町 風景談話

# 新 石井小景

石井町勢要覧

石井町 風景談話  
新 石井小景

石井町勢要覧 2009

発行 ● 徳島県石井町  
徳島県名西郡石井町高川原字高原121-1  
TEL 088-674-1111 FAX 088-675-1500  
発行日 ● 平成21年3月  
編集 ● 石井町企画財政課  
制作 ● 株式会社 きょうせい





新石井小景

# 石井町風景談話 新 石井小景

## C O N T E N T S

<b>特集／新 石井小景</b>	2
春の章	4
夏の章	6
秋の章	8
冬の章	10
街角探訪日記	12
<b>お元気ですか 石井より愛をこめて</b>	16
<b>古を巡る道</b>	18
<b>青を巡る道</b>	19
古代文化と繁栄の証	20
<b>追憶の標</b>	24
いしいの逸品、み～つけた!	28
石井町訪ね歩きガイドマップ	30
<b>施策</b>	33
人にやさしい健康で生き生きと暮らせるまちづくり	34
人と自然の調和する美しいまちづくり	36
人を育み人が輝く活力あふれるまちづくり	38
<b>町のプロフィール</b>	40
発刊にあたって	41



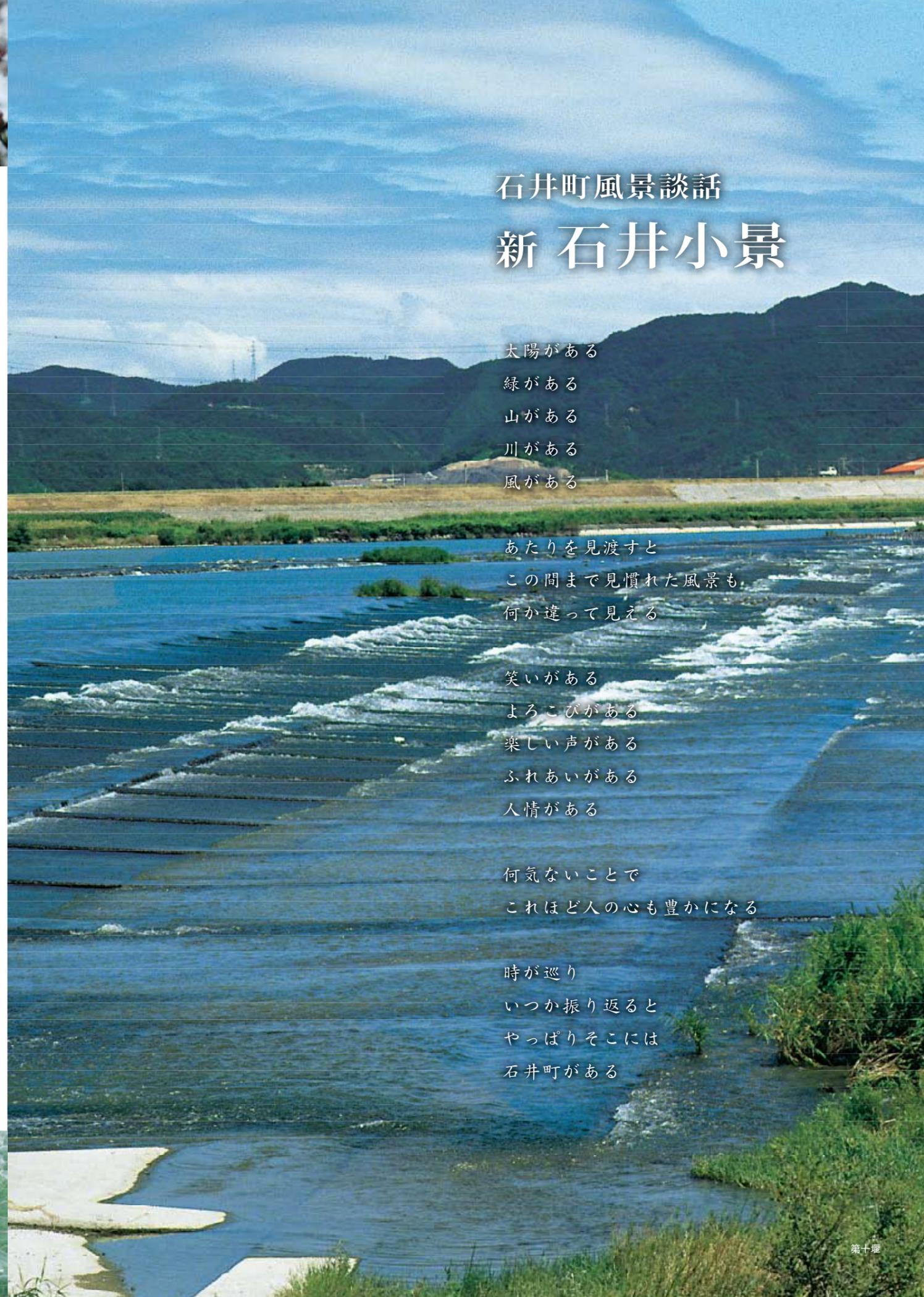
太陽がある  
 緑がある  
 山がある  
 川がある  
 風がある

あたりを見渡すと  
 この間まで見慣れた風景も  
 何か違って見える

笑いがある  
 よろこびがある  
 楽しい声がある  
 ふれあいがある  
 人情がある

何気ないことで  
 これほど人の心も豊かになる

時が巡り  
 いつか振り返ると  
 やっぱりそこには  
 石井町がある





地福寺の藤

春は桜と藤の花が町を彩る季節。県立農業  
大学校の桜のトンネル、前山公園、桜づつ  
み公園で桜を愛でたあとは、地福寺で藤の  
花に思いを寄せてみる。それは、石井の春  
の花紀行。



第十堰からの風景

吉野川の水も澄み、流れに勢いを見せはじ  
めると石井町の夏。第十堰周辺を散策した  
あとは、納涼夏まつりで夏のひとときを満  
喫。打ち上げ花火に夏の余韻を感じながら。



新宮本宮両神社

少し肌寒く感じてきたら、矢神の銀杏・天  
神の銀杏が徐々に黄色く姿を変えてくる  
季節。三社神社の勇獅子など、秋祭りを横  
目に歩く秋の石井町の町並みはどこかセ  
ンチメンタルな雰囲気…。



椿園

吐く息も白くなってくると、町は冬の装い  
に。咲く花もいつの間にか椿になり、落ち  
着いた雰囲気へと様子を変える。それは  
きっと待ち遠しい春への準備。



## 四季折々の彩り

季節ごとに風景が表情を変えても、  
石井町の四季はそれぞれに穏やかで優しい。  
思いっきり深呼吸をして、  
からだ中で「四季」を感じてみよう。



町を歩いてみるとふとした時に、  
見つけるものがあります。  
日頃、気づかないのに、  
一度気になると、  
その存在感の大きさを感じたりします。  
人も歴史も  
時間軸の中で形成されていて、  
穏やかに流れていく。  
また、季節の移ろいにあわせて、  
町も人も色や姿を変えていく。  
それらに気づくと何だか毎日が楽しい。



サクラが咲いた。  
私の心もニッコリ咲いた。

桜づつみ公園



## 春風が奏でる花便り ——春の章

あたたかい春風が  
花々の香りを運んでくれます。  
人々の顔も嬉しそうで、  
自分自身が癒されていることに  
気づきました。

石井町の春は桜と藤が有名で、  
県立農業大学の桜のトンネルや前山公園では  
立派な桜が堪能でき、  
地福寺に足を向ければ、  
藤棚に満開の藤の花が風に揺られて  
気持ちよさそうです。  
この藤の香りをお届けできないのが残念なのですが…。

まちのあちこちが春色に彩られ、  
私たちの目を楽しませてくれます。  
農産物直売所へ行くと春の野菜や山菜が  
ところ狭しと並べられ、  
この間まであんなに寒い思いをしていたのに  
すっかり冬はどこかへ行ってしまいました。

春。  
新しい季節を感じながら、  
新たな出発の時が来ました。  
このすばらしい石井町の春を  
目一杯、楽しみたいと思います。

また、お便りします。



花火がくっく  
ちくちく  
ちくちく

納涼夏まつり

## 母なる川と夜空の花火 ——夏の章

小中学校の花壇に  
朝顔やひまわりの姿を見つけたり、  
まちゆく人の服装が半袖に変わり  
汗をぬぐう人が目立ってきたら、  
夏の訪れを感じます。

石井町の北部を流れる吉野川は、  
夏が近づくと同時にその青さを増し、  
夏の日差しにキラキラと輝く川面が、  
さわやかで、力強い季節の訪れを  
さらに演出してくれます。

夏といえばこの石井町では  
恒例の納涼夏まつりが開催されます。  
子どもから大人まで、  
町中から多くの人が集まり、  
この日だけは日ごろの疲れを忘れ  
大いに夏のひとときを楽しみます。

そういえば、  
夏まつりの最後に上がる打ち上げ花火を  
デジカメで撮影しました。  
上手く撮れていたのが、  
絵はがきにして残暑見舞いを送ります。

石井町の夏を少しでも感じてください。





イキヨウの葉っぱが  
クルクル舞った  
風に吹かれて  
クルクル舞った

天神のイチョウ



## 祭りの音が聞こえるとまちは色づき始める ——秋の章

夏の慌ただしさも過ぎ、  
まちも少し落ち着きを取り戻しつつあります。  
田園部を車で走っていたら、  
ちらほらと藍の花が咲いているのが目にとまりました。  
少々地味でつい見過ごしがちなのですが  
よく見るとなかなか味わい深い花です。

石井町に秋がやってきました。  
気づけば肌に触れる風もずいぶんと涼しくなりました。  
石井町が誇る矢神のイチョウや天神のイチョウは、  
すっかり金色の衣装に衣替えです。

秋といえば三社神社の「勇獅子」の季節でもあります。  
この勇壮な舞は石井町の秋を象徴する行事。  
激しい獅子舞と太鼓の音が力強く石井町に響き渡ります。

今、  
私は秋風に吹かれながらまちの音に耳を傾けています。  
徐々に、徐々に、  
冬の足音が近づいてきているようです…。





椿の花が真っ赤に咲いて、  
私のほっぺも真っ赤に染まる。

椿園

## 冬の澄んだ空気と、春待ち町模様 ——冬の章

空気が澄んできて吐く息もだんだん白くなる今日この頃。

銀杏の木はすっかり葉を落とし、

今度はその足下に金色のじゅうたんを作り上げています。

お正月に向けて農家は、出荷のピークを迎え、

忙しそうにしています。

まちを歩くときもコートの襟を立てて歩くようになりました。

街路の草木は冬支度をはじめ、

椿園にも白、赤、ピンクと色とりどりの

珍しい椿の花が咲き始めています。

石井町のまち並みは冬の装いとなりました。

でもそれはこのまちが、新しい一年を迎えるための大切な時間。

待ち遠しい春はもうすぐです。





藤花杯の  
バスケットボール大会でのコマ。  
監督の話に子供たちも真剣。  
負けられない、  
誰だって勝ちたい。ガンバレ!



『徳島の夏』といえば阿波踊り。  
女踊りは、上品で艶っぽく、  
いつ見ても心づかゆる。  
おめまのリズムを聞いてると、  
一緒に踊りたくなった。



石井駅前新しい道路ができた。  
ちょっとした道路でも有ると無いとでは大違い。  
こうして人々の暮らしは、  
どんどん便利になっていくだろう。



ドーン、ドーンと大きな音が  
町中に響き渡り、  
大輪の花が夜空に咲いた。  
歓声を上げることも忘れ、  
みんなホカンと口を開けて  
夜空を見上げていた。



つる性の植物を軒先などに植えて、  
緑のカーテンを作っているのを見た。  
個人でできるエコ活動のひとつだ。  
来年は、朝顔のカーテンづくりに  
挑戦してみようかな。



地福寺では、樹齢200年余りの紫藤の花が、  
日の光を浴びてキラキラしながら風にたなびいていた。  
長い間、人も楽しませてきた藤の花からは、  
可憐さだけでなく、時間の重みも感じられた。

吉野川の土手も車で走って  
いると、鮮やかな黄色が目  
飛び込んできた。菜の花は、  
春を告げる花の代名詞。



野鳥の森で、メジロも見つけた。  
足音で逃げないように  
そっと近づいて撮影に成功。  
最近見る機会の少なくなったメジロは  
驚よりも『ウガイス色』だった。



農大へお花見に行った。  
人は、お花見に行くと、お酒で酔うけれど、  
ニニの桜は、見つめているだけで、  
桜に酔ってしまいそう。

街角探訪日記

# ● 石井流の時間

～流れのまま、気の向くまま～

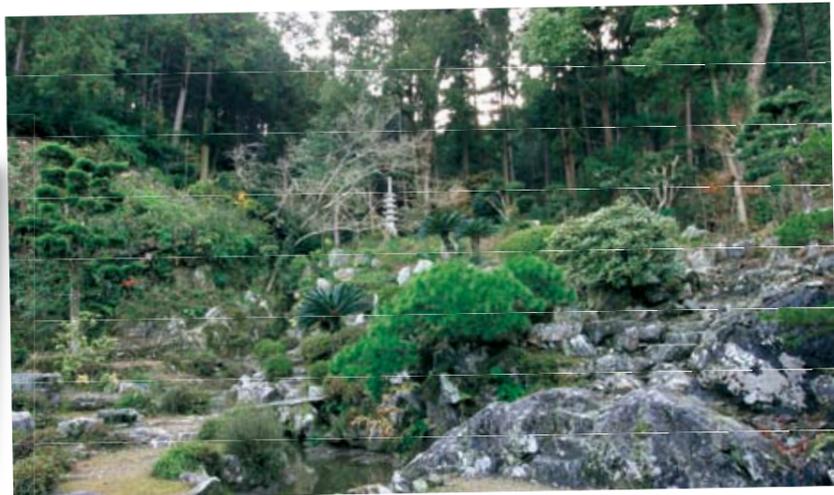
石井町にはゆっくりとした時間が流れている。  
川のせせらぎや、そよ風の薫りに  
心が洗われる。  
太陽の光や、月の満ち欠けは  
気持ちも新たにしてくれる。  
一見どこにもあるような風景も、  
石井ならではの吉野川があり、  
石井だから吹く風があり、  
太陽も月も石井でみるとまた違ったものに  
見えるのです。  
こんな大きな自然と向き合えることは、  
とても素晴らしいこと。  
だから人の表情も、まちの表情も、  
いつも笑顔のまま。

# 石井流の時間

～流れのまま、気の向くまま～



小学校の運動会に出かけた。  
玉入れ、騎馬戦、徒競走。  
懐かしい競技の数々に、  
つい、童心にかえってしまった。

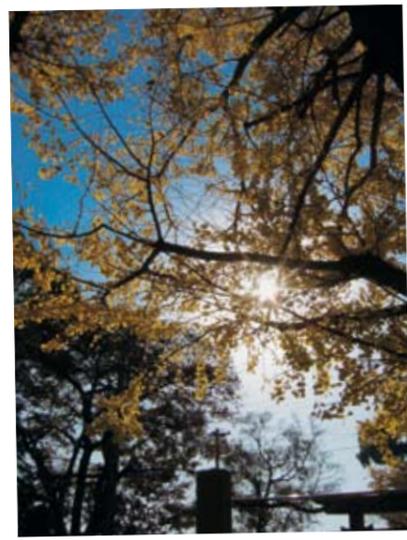


童学寺の本堂の裏に逍遙園という庭園がある。  
この庭園の中に流れる時間は、日々の慌たせと異なり、  
ゆっくりと穏やかで、訪れる人の心を癒してやる。



中央公民館で  
健康まつりが行われていた。  
健康慮れをするそうで、  
準備に余念がありません。  
健康について  
興味をもってもらえると、  
そゆが、健康づくりの第一歩。

第十堰から見た夕日。  
土手の上からだと  
気づかなかつたけど、  
川面も夕焼けに染まっていた。



天神様で一休みしていると、  
イチョウの枝葉の向から木漏れ日が差していた。  
これこそまさに石井流のイチョウ鑑賞。



飯尾川公園では、地元の企業さんたちが作った  
イルミネーションが点灯していた。  
可愛く飾られた作品に、子どもたちも大喜び。



はじめて乳牛・和牛共進会に行ってきた。  
手塩にかけて育てた牛たちを披露し、  
グランドチャンピオンも選んでいた。



青年団が中心となって、  
毎年の夏まつりは南催でまている。  
光り輝く背中の文字は有志の証。  
太陽よりも眩しい。



毎年11月3日に三社神社の祭礼に  
奉納される高川原勇獅子。  
物語は14の場面で  
構成されているらしく、  
激しい動きはとて勇壮だった。



としまマラソンの  
応援に行った。  
ランナーが一瞬懸命走る姿に  
感動した。  
いつかは挑戦してみたい。



田中家住宅に、見たことのないものがあった。  
家の方に尋ねると、『跳ねつるべ』という  
深い井戸の水をくみ上げる道具だと  
教えてくれた。

# お元氣ですが る井より愛をこめて

のどかな田園風景の中にあたたかみ「いいドーム」は、  
町民の健康増進やスポーツを通じた交流を目的として

平成15年4月にオープンした飯尾川公園のスポーツ施設です。

ドーム状の屋根を持つ「温水プール館」、

トレーニングマシンを導入した

「トレーニング館」からなり、

これらの施設が建つ飯尾川公園には

およそ2ヘクタールの芝生広場があり、

家族連れやウォーキングを楽しむ人

などが多く訪れ、

住民の憩いの場として

利用されています。



**温水プール館**  
全7コースの日本水泳連盟公認の25メートルプールをはじめ、すべり台や噴水が設置された子供用プール、手すり付きの流水プールなどがあり、泳ぐのに疲れたらジャグジーやマッサージプールでリラクゼーションすることもできます。アクアトレーナーやサウナ感覚で利用できる採暖室もあり、本格的なトレーニングから健康維持のための運動までさまざまなニーズに適した設備がそろっています。



## トレーニング館

トレーニングルームにはエアロバイクなどの有酸素系マシン、筋力トレーニングマシン、体力測定マシンなどが設置されており、体力年齢などの測定結果をもとに、トレーナーが個別にトレーニングメニューを提案してくれます。コミュニティホールでは、太極拳や空手シエイブ、ストレッチ解消エアロなどの講座が専門インストラクターにより実施されているほか、市民ホール、ミーティングルームも設置され、さまざまな利用ができるようになっています。



## 各種講座

講座には有料講座と無料講座（ともに施設利用料が別途必要）があり、フロントで申し込みができます。体の健康づくり講座では、太極拳、ヨガ、エアロビクス、子ども講座（スイミング・体操）などが人気で、カルチャー講座も開催しています。

## 石井町飯尾川公園いいドーム

徳島県名西郡石井町高川原字高川原2115-3  
TEL 088-675-2211

営業時間／平日：10：00～22：00  
日曜・祝日：9：00～19：00  
※最終受付30分前

定休日／月曜、年末年始



# 青を巡る道

石井町の北辺を画する吉野川は、かつて氾濫により多くの人を苦しめました。しかし、同時に運ばれた沃土は、そこに石井町を彩る青色のひとつ「藍」を育んだのです。戦国期に需要が高まった阿波藍は、徳島藩の藍作奨励を経て藍商たちに莫大な富をもたらします。

田中家は寛永年間（1624～1644）から代々続いた藍商の家。現在のこの「田中家住宅」は安政元年（1854）頃から約30年の歳月を費やし完成させたものです。左手の藍寝床（藍の葉を発酵させて「すくも」と呼ばれる染料に加工する場所）、茅葺屋根の主屋、地元産の青石が用いられている石垣など、藍商の全盛時代を彷彿とさせる規模と造りが印象的です。

武知家も田中家同様に藍商として名を馳せた家。主屋（1862年築）を中心に各棟が周囲をとりまく構成で、青石がふんだんに用いられているのも田中家住宅と同様です。中でもこの住宅で目を引くのが県指定文化財にもなっている藍寝床。木造瓦葺二階建の造りは非常に大きく、現在でもここでは「すくも」が製造されています。



市楽の板碑群（県指定有形文化財）

石井町高川原字市楽363 / 見学自由



桜間の池跡・石碑（県指定史跡）

石井町高川原字桜間281 / 見学自由

石井町の南辺を画する山塊は、もうひとつの青色「阿波の青石」の産地。良質の緑泥片岩である青石は、古くは古墳時代より様々な用途に活用されてきました。

県の有形文化財にも指定されている市楽の板碑群もそのひとつ。石川神社境内にあり、五輪塔型、国東型、双式型などの様々な様式からなる17基の板碑が立っています。年代が判っているもののうち、最古のものは弘安8年（1285）の紀年銘のものです。



田中家住宅（国指定重要文化財）

石井町藍畑字高畑705 / ☎088-674-0707  
見学は日曜日・祝日のみ（他の日程を希望する方は2週間前までにお問い合わせください。）  
見学料 大人 500円（ガイドなし300円）・小人（小学生以下）200円（ガイドなし無料）



武知家の藍寝床（県指定有形民俗文化財）

石井町高川原字天神133（見学は外観のみ）

また、石の文化財で忘れてはならないのが桜間の石碑。夫木和歌集において「鏡とも見るべきものを」と称えられた美しい池がありましたが、江戸時代後期には池跡となっていたようです。それを惜しんだ阿波藩主蜂須賀齊昌の命により、文政11年（1828）より海部郡由岐浦の海中より砂岩の巨石を運び、その景勝を記念する石碑としました。石碑の表に刻まれた由来を語る和歌と裏に刻まれた石碑運搬の顛末に触れ、かつての名勝地に思いを馳せてみませんか。

# つれづれと歩く、石井町歴史散歩

# 古を巡る道

吉野川の下流に位置し、古くは弥生時代から栄えていたといわれる石井町。早くから多くの寺院が建立されていたことから、この地が阿波の政治・文化の中心であったことがうかがい知れます。



童学寺もそんな石井町の歴史を象徴する文化財のひとつ。寺伝によれば飛鳥時代に高僧行基が創建したというこの童学寺、奈良時代末には幼少の空海がこの寺で学び折に「いろは四十八文字」を創作したと伝え、寺号「童学寺」の由来ともなっています。後に空海がこの寺を再訪し、伽藍を整備するとともに自ら彫刻した薬師如来・阿彌陀如来・観音菩薩・持国天・毘沙門天・歡喜天を安置したとの言い伝えも。本堂の裏には桃山時代の作とされる庭園「逍遙園」もあり、季節ごとに見せる様々な表情で訪れる人の目を楽しませてくれます。

童学寺は現地に行けば今も見ることが出来ますが、その一方で今は失われてしまった寺院も。それが奈良時代に聖武天皇の発願により全国に建立された官寺のひとつ、阿波国分尼寺跡です。現在は建てていた場所が国史跡に指定され、往時のすがたを今に伝えるための史跡整備が進められています。整備にともなうこれまでの発掘調査では金堂跡・講堂跡・北門跡などが見つかり、国分尼寺の伽藍配置がわかる稀有な例として、全国的にも重要な遺跡となっています。

そのほか、古代豪族の氏寺跡とされる石井廃寺など、古い歴史を示す寺社や寺跡が町内のそこかしこに。折あらばそれらを訪ね、石井町の「往にし方」へ旅してみるのもまた一興。



童学寺

石井町石井字城ノ内605  
☎088-674-0138  
境内自由 / 庭園拝観料 200円



阿波国分尼寺跡（国指定史跡）

石井町石井字尼寺12-1 他 / 見学自由



# 古代文化と繁栄の証

かつての石井町を今に伝える文化財の数々



金剛界曼荼羅  
胎藏界曼荼羅  
(町指定有形文化財)

金剛界は表現の世界を、胎藏界は内在の世界を表すとされ、これら2つを合わせて「両界曼荼羅」といい、密教の世界観をあらわします。室町時代の作と考えられており、蓮光寺に所蔵されています。



高川原の板碑 (県指定有形文化財)

敷地神社の社殿に奉納されており、全長173cmの緑泥片岩に大きく「南無阿弥陀仏」と刻まれています。蓮座の上に名号を配する時宗板碑の典型的なもので正応2年(1289)の造立です。



銅鐸形土製品

高川原遺跡から出土した銅鐸を模した土製品。全国で80点ほど出土していますが、その写実的な表現から非常に銅鐸を熟知した作者によるものとされ、貴重な資料となっています。

密宗所學説一切有部  
受戒隨行要軌板木  
(県指定有形文化財)

蓮光寺に収蔵されている版木で、仏法における戒の授受の方式ならびに受戒にもとづく修行や日常生活全般における遵守すべき規範について記され、江戸時代の真言宗内部を知る著作としてその学術的価値は大きいものとされています。



絹本着色阿弥陀三尊來迎図 (県指定有形文化財)

浄土寺にあり、群青下地の画面ほぼ中央に阿弥陀如来立像、その足下左右に脇侍の観音、勢至の2菩薩が描かれた作品。三尊とも仏身は金泥で描かれ、室町時代の特色をよく表しています。



絹本着色  
伝兜率天曼陀羅図  
(県指定有形文化財)

浄土寺にある、鎌倉時代後期の作品。兜率天とは弥勒菩薩が住むという浄土のこと。画面中央に縦に10層の塔を描き、その中に如来坐像、見上げる俗人、武人像などが整然と描かれています。



# 古代文化と繁栄の証

かつての石井町を今に伝える文化財の数々



阿弥陀如来立像（県指定有形文化財）

浄土寺の本尊である立像。高さ105cmで、両手は来迎印を結びます。檜材を使った寄木づくりで、平安時代の作とみられ、円顔・浅い彫り・薄い側面観などがその時代の特徴を伝えています。



釈迦如来坐像（町指定有形文化財）

浦庄字下浦の釈迦堂に安置されており、俗に「下浦のお釈迦はん」と呼ばれる如来像。座高240cmの姿は迫力満点。現在の像は、頭だけが鎌倉時代のもので、胴部や膝、両手などはのちほど改修されたものです。

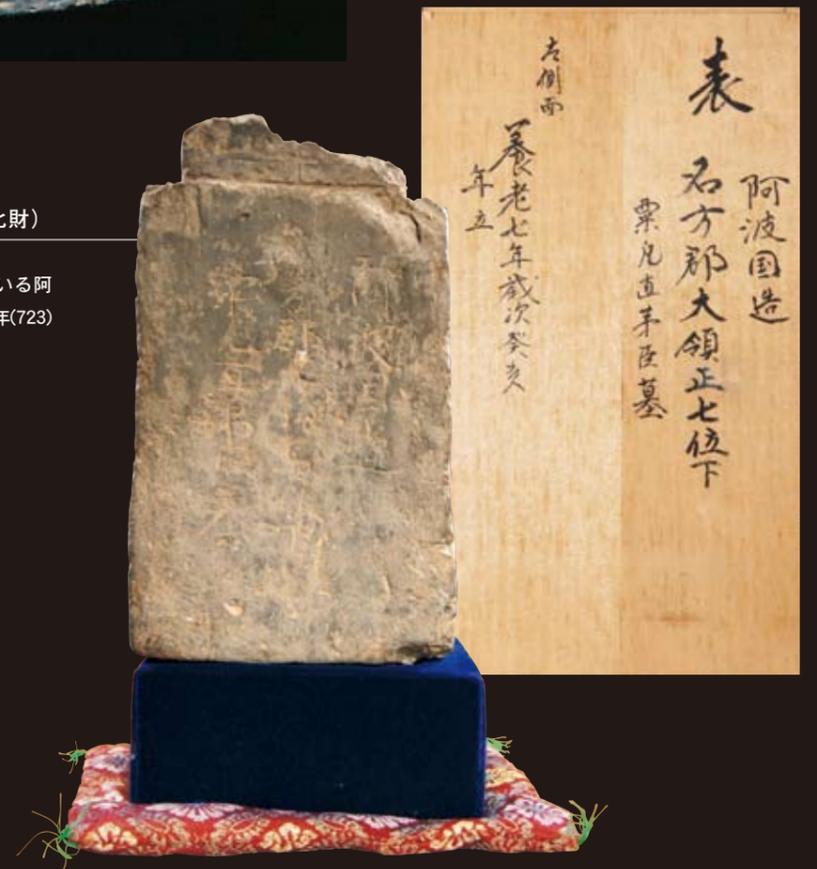


木造薬師如来坐像（国指定重要文化財）

童学寺の本尊として安置されている坐像。高さ64cmで、施無畏与願印を結び左手に薬壺をとりまします。檜材寄木づくりで、漆箔はほとんど剥落し現在は素地を見せてしまっています。切れ長の目に小さな口元の穏やかな表情や彫りの浅い衣が藤原期の特徴をよく示します。

阿波国造墓碑（県指定有形文化財）

中王子神社のご神体として祭られている阿波国造の墓碑。側面に刻まれた養老7年(723)の年号は、全国的にも最古級です。



# 昭和15年～

昭和15年[1940] ●各町村で隣組結成、男子は国民服、女子はモンペを着用ようになる ●日独伊三国軍事同盟

昭和16年[1941] ●主食が配給となり米麦の生産農家は供出制度となる ●太平洋戦争始まる

昭和19年[1944] ●各町村に農業会誕生 ●大阪市内の小学校が分散疎開 ●米空軍本土爆撃

昭和20年[1945] ●徳島市大空襲のため各町村で救援の炊き出し ●枕崎台風で稲作に大災害 ●広島・長崎に原子爆弾投下 ●第二次世界大戦終戦 ●第一次農地改革

昭和21年[1946] ●婦人参政権付与後初の総選挙 ●昭和天皇の人間宣言 ●南海地震

昭和22年[1947] ●石井・浦庄・高原・藍畑・高川原中学校創立 ●各町村に消防団設置 ●六三三制の新学制実施 ●日本国憲法施行

昭和23年[1948] ●県立名西高等学校設立 ●高川原幼稚園を小学校に併設

昭和24年[1949] ●浦庄幼稚園・高原幼稚園・藍畑保育所開設 ●湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞

昭和25年[1950] ●昭和天皇石井町へ巡幸される ●浦庄村に羊毛加工場できる ●朝鮮戦争始まる

昭和26年[1951] ●高川原養鶏組合結成 ●日米安全保障条約に調印

昭和27年[1952] ●藍畑村立和洋裁縫製高等女子学校創立 ●四国放送がラジオ放送開始

昭和30年[1955] ●旧石井町・浦庄村・高原村・藍畑村・高川原村の5カ町村が合併し石井町誕生 ●石井町PTA連合会結成

昭和31年[1956] ●高川原養鶏組合が鶏卵の審査員で日本一となり農林大臣賞受賞 ●日本が国連に加盟 ●神武景気

昭和32年[1957] ●石井町役場新庁舎竣工

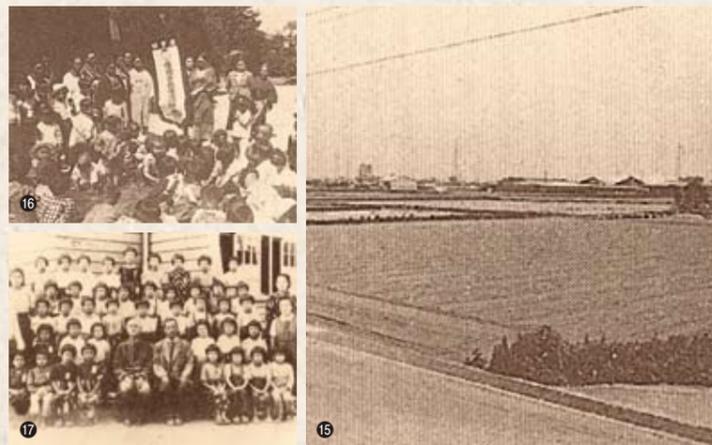
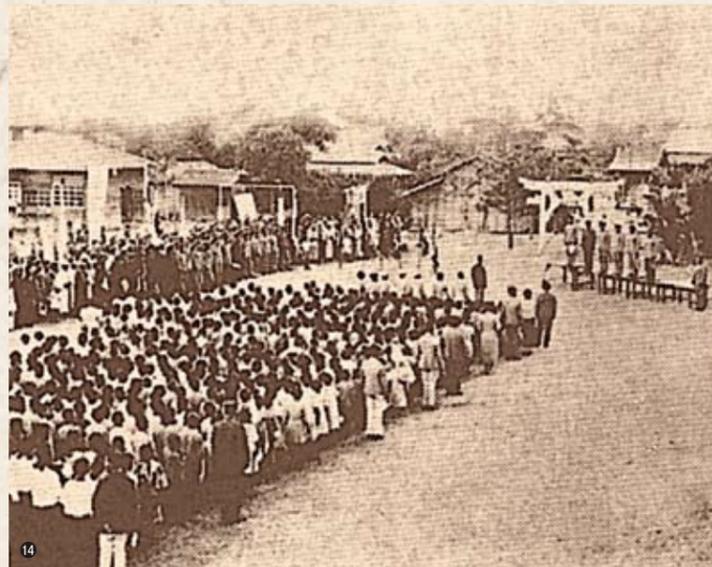
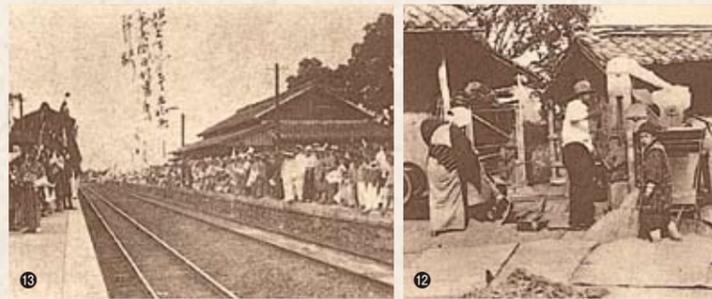
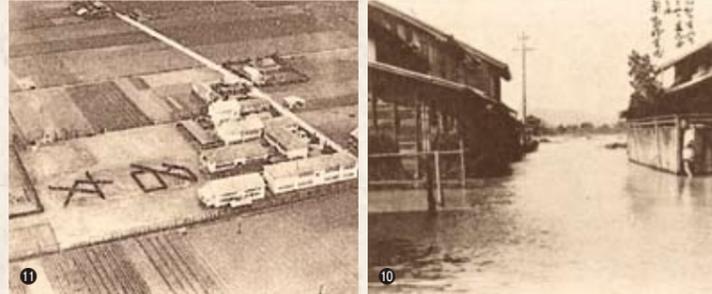
昭和33年[1958] ●石井・高川原・藍畑中学校を統合して石井中学校となる ●石井中央団地住宅建設始まる

昭和34年[1959] ●石井町国民健康保険施行 ●浦庄農協が町内で最初の有線放送電話開始

昭和35年[1960] ●藍畑小学校をはじめとして順次学校給食を開始 ●石井町商工会誕生

昭和36年[1961] ●町章制定

昭和37年[1962] ●国道192号線に郡部で初めて信号機設置



10 室戸台風による被害  
11 名西高女全景  
12 家族総出で初すり  
13 出征風景  
14 出征壮行式  
15 高川原土地改良区造成地  
16 高川原農繁託児所  
17 大阪から疎開してきた児童たち

# 明治34年～昭和

明治34年[1901] ●時代は20世紀へ

明治37年[1904] ●日露戦争始まる

明治38年[1905] ●記念麻名普通水利組合創立(翌年起工) ●日露戦争終結

明治40年[1907] ●石井村が石井町となる

明治41年[1908] ●名西郡教育会付属図書館設置 ●麻名用水の一部通水

明治42年[1909] ●石井郵便局が電話通話業務を開始

明治44年[1911] ●童学寺木造業師如来坐像が国の重要文化財に指定される ●台風により石井町のほとんどが浸水 ●吉野川改修工事起工

明治45年[1912] ●石井町で初めて電灯がつき祝賀会が行われる ●麻名用水竣工 ●明治天皇崩御 ●第5回オリンピック(ストックホルム)に日本人選手初参加

大正3年[1914] ●童学寺越トンネル完成 ●第一次世界大戦勃発

大正4年[1915] ●石井町で劇場「曙座」落成 ●第1回全国中等野球大会開催

大正7年[1918] ●第一次世界大戦終結

大正12年[1923] ●県立名西高等女学校開校 ●石井郵便局が電話交換業務を開始

大正13年[1924] ●高原村の富士自動車商會が石井駅・高瀬間で乗合自動車の営業を始める

大正14年[1925] ●石井町石井に名西搾乳業を開設 ●「治安維持法」「普通選挙法」公布

大正15年[1926] ●郡役所が廃止され庁舎は石井役場として使用 ●大正天皇崩御

昭和2年[1927] ●六条橋架橋 ●藍畑村が連続4回、県下1・四国1の養蚕村となる ●町内1号のタクシー業者開業

昭和4年[1929] ●世界恐慌始まる

昭和5年[1930] ●藍畑村に園芸出荷組合設立

昭和7年[1932] ●高原村有畜農業実行組合創立 ●第一次上海事変

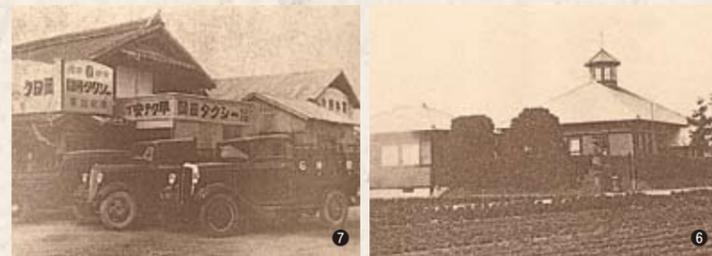
昭和9年[1934] ●白鳥駅・下浦駅設置 ●室戸台風で大災害

昭和10年[1935] ●高原村に徳島県酪農組合連合会できる ●石井幼稚園を小学校に併設

昭和11年[1936] ●県下で最初の練乳工場ができる(現森永乳業) ●二・二六事件

昭和12年[1937] ●藍畑村で煙草の試作始まる ●日中戦争始まる

1 名西郡立養業傳習所女子卒業生  
2 麻名用水取水樋門  
3 名西郡深耕競争会  
4 童学寺越トンネル完成  
5 高川原小学校  
6 石井警察署  
7 石井町で最初の陸運業  
8 高浦橋架設  
9 高川原小学校プール竣工



# 昭和60年～平成

昭和60年 [1985] ●合併30周年 ●竜王テニスコート完成 ●大鳴門橋開通 ●日航ジャンボ機墜落520名死亡 ●電電公社が民営化しNTTに

昭和61年 [1986] ●前山運動公園完成 ●中央公民館落成

昭和62年 [1987] ●電子計算機導入 ●国鉄が民営化しJRに

平成 1年 [1989] ●第2・4土曜日閉庁

平成 2年 [1990] ●健康とやすらぎの町づくり事業(前山公園再整備)着手 ●相撲場完成 ●町合併30周年記念事業「町史」発刊

平成 3年 [1991] ●皇太子殿下行啓(阿波国分尼寺跡・第十堰)

平成 4年 [1992] ●新農業構造改善事業「農村情報連絡施設」(CATV)完成 ●第十桜づつみ公園完成

平成 5年 [1993] ●健康とやすらぎの町づくり事業(前山公園再整備)完了 ●第48回国民体育大会「東四国国体」相撲競技開催、天皇陛下観戦される

平成 7年 [1995] ●合併40周年、記念行事として「NHKのど自慢」招致

平成 9年 [1997] ●ごみの分別収集開始

平成10年 [1998] ●クリーンセンター稼働開始 ●廃棄物再生利用施設リサイクルセンター完成 ●全国高等学校総合体育大会相撲競技開催

平成12年 [2000] ●一般廃棄物最終処分場完成

平成13年 [2001] ●主要地方道石井神山線新童学寺トンネル開通

平成14年 [2002] ●リサイクルセンター拡張工事完成 ●清掃センター灰固形化施設完成

平成15年 [2003] ●飯尾川公園(いしドーム)完成 ●石井小学校北校舎増築改築事業完了 ●第16回全国健康福祉祭徳島大会なぎなた競技大会開催

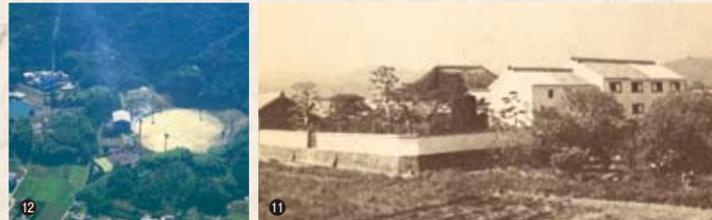
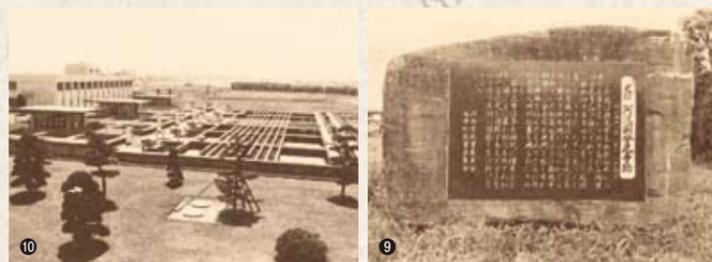
平成16年 [2004] ●台風23号による水害発生

平成17年 [2005] ●合併50周年、行政のしおり発行 ●総合型地域スポーツクラブ設立

平成18年 [2006] ●町道南島11号線全線開通

平成19年 [2007] ●第22回国民文化祭・とくしま2007民俗芸能の祭典「獅子舞」開催

平成20年 [2008] ●町道石井駅山路線開通



⑧ 町内初の信号機設置当時  
⑨ 阿波国分尼寺跡  
⑩ 上水道給水開始  
⑪ 田中家住宅  
⑫ 前山公園空撮  
⑬ 国体相撲会場  
⑭ 平成13年新童学寺トンネル開通式  
⑮ 飯尾川公園空撮

# 昭和38年～追憶の標

昭和38年 [1963] ●石井町体育協会結成 ●米大統領ケネディ暗殺

昭和39年 [1964] ●浦庄に石井町柑橘生産組合設立 ●「交通安全の町」宣言 ●東海道新幹線開業 ●東京オリンピック開催

昭和40年 [1965] ●合併10周年 ●旧5カ町村の農協が合併し石井町農協誕生 ●塵芥焼却場完成 ●名神高速道路全線開通

昭和41年 [1966] ●町民プール完成

昭和42年 [1967] ●県立農業大学校が石井町に移転 ●徳島空港ターミナルビル完成

昭和43年 [1968] ●石井町社会福祉協議会設立 ●川端康成ノーベル文学賞受賞 ●明治百年記念式典

昭和44年 [1969] ●老人福祉センター設立 ●日本電信電話公社石井電報電話局開設 ●東名高速道路全線開通

昭和45年 [1970] ●六条大橋完成 ●下浦団地住宅建設始まる ●石井町の乳牛飼育五千頭を越え県下一に ●日航機「よど号」ハイジャック事件 ●大阪で万国博覧会開催

昭和46年 [1971] ●新都市計画法施行、市街化区域と調整区域を決定 ●県立農業試験場が石井町に移転

昭和47年 [1972] ●農業研修センター設置 ●石井町文化財保護条例制定 ●国分尼寺跡発掘調査実施

昭和48年 [1973] ●「阿波国分尼寺跡」が国の指定史跡となる ●石井町上水道給水開始 ●農村総合整備モデル事業実施町に指定 ●石井中学校に夜間照明設置 ●早明浦ダム完成 ●第一次オイルショック

昭和49年 [1974] ●日本ハム(株) 徳島工場誘致 ●池田高校さわやかイレブン春の甲子園大会で準優勝

昭和50年 [1975] ●合併20周年 ●県立野島の森開場 ●沖縄海洋博開催

昭和51年 [1976] ●「田中家住宅」が国重要文化財に指定される ●養護老人ホーム「気延荘」開設 ●ロッキード事件

昭和53年 [1978] ●清掃センター完成 ●成田空港開港

昭和54年 [1979] ●名西消防組合石井消防署設置 ●第二次オイルショック

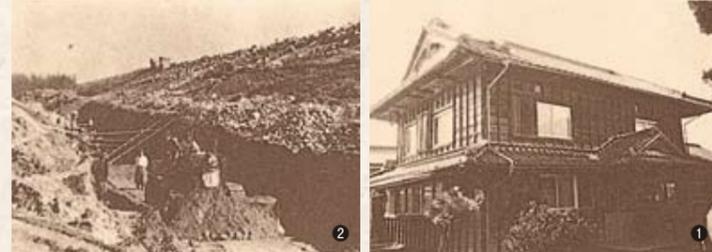
昭和56年 [1981] ●保健センター設置 ●上越新幹線・東北新幹線開通

昭和57年 [1982] ●町民憲章制定 ●町の花に「藤」町の木に「いちよう」町の鳥に「うぐいす」を制定 ●池田高校が甲子園で初優勝

昭和58年 [1983] ●学校給食センター設置

昭和59年 [1984] ●「石井町民の歌」「いい音頭」を発表

① 藍畑村役場  
② 吉野川堤防改修工事  
③ 吉野川改修工事の現況  
④ 天皇巡幸  
⑤ 藍畑中学校  
⑥ 藍畑村立和洋裁縫高等学校  
⑦ 通話を開始した高原有線電話



▲ 岡萬本舗「か津らふぢ餅」  
石井町石井字石井444-2  
TEL 088-674-0038  
定休日/なし

▲ 永見和菓子店「石井ふぢ餅」  
石井町石井字石井1230-4  
TEL 088-674-0116  
定休日/月曜日午後

町の花である「藤」をモチーフとした石井町を代表する銘菓です。可愛い色合いとほんのりとした甘さがお茶請けにはぴったり。石井町のお土産と言えばコレ!

# 藤餅



豊かな自然と風土に育まれた美味しいものが、そこかしこにある石井町。季節が運んでくるたくさんの恵みから、それらは生まれました。その中でも特に有名な特産品を探してきました。



# いいの逸品、み~つけた!!

石井町にはおいしいものがいっぱい。

なると金時を使った本格芋焼酎で、阿波の逸品に選ばれています。一口含めば芋の甘い風味が口いっぱいに広がります。

# 情留酒 鳴門金時

大正の頃は「阿波たくあん」として知られていたたくあん漬は、石井町を代表する特産品で7社の地場製造元が味を競っています。その他にも様々な漬物が作られています。



# 漬物

▲ 鳴門金時蒸留所  
石井町高原字桑島7-1  
TEL 088-675-3933

▲ 丸井産業(株)/阿波漬物(株)  
徳島マルカ食品(株)  
森沢産業(有)/丸井内  
マルキン忠勇(株)徳島工場/川真田食品(有) (敬称略・順不同)

石井町は吉野川によって運ばれた肥沃な土地でたくさんの野菜が作られています。ホウレンソウ・ニンジン・ゴボウ・小松菜・枝豆・ダイコンなど新鮮でみずみずしい野菜の供給基地です。町内には常設の農産物直売所があり、町内外から多くの買い物客で賑わっています。

# 農産物直売所

▲ 酒市場百姓市場  
石井町高川原字天神664-1  
TEL 088-674-5310  
定休日/なし

▲ 百姓一  
石井町石井字重松639-5  
TEL 088-674-7377  
定休日/水曜日

▲ 産直市白鳥  
石井町石井字白鳥30  
定休日/月曜日

▲ 石井農産市  
石井町高原字西高原327  
TEL 088-675-0417  
定休日/火曜日

▲ めぐみの里  
石井町高川原字高川原2411-3  
TEL 088-674-2365  
定休日/火曜日



日本の食文化を築いてきた代表的な醸造食品は醤油です。加賀屋も百年の年月を経て、新しいアイテムも加わり、今なお徳島の家庭には欠かせない味として定着しています。

▲ 加賀屋醤油  
石井町浦庄字国実247-2  
TEL 088-674-2211

# 蕨窯

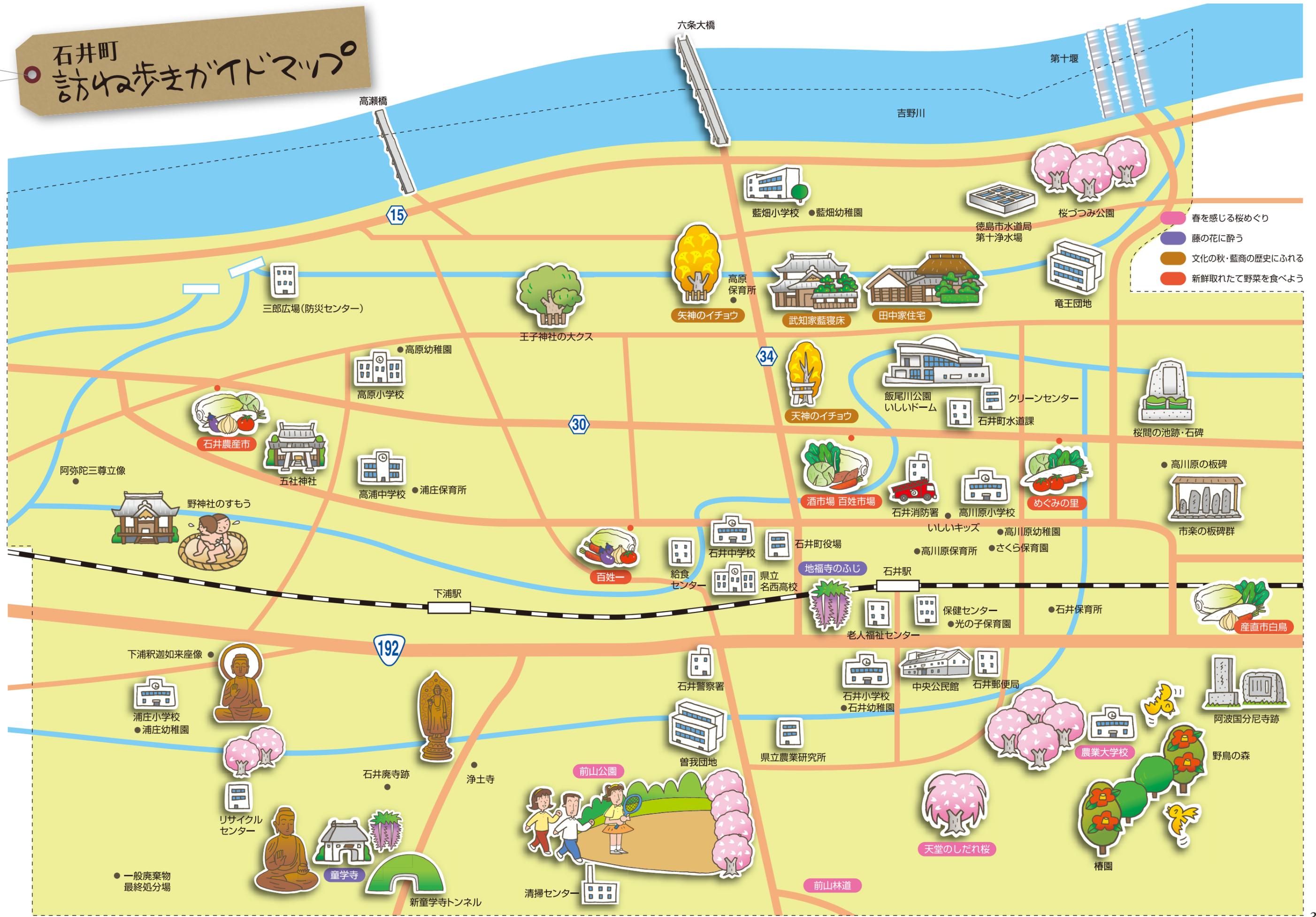
青瓷の釉薬に藍を使うなど、徳島ならではの陶芸作品を数多く作っています。独特の色合いとその存在感に引きこまれてしまいます。

▲ 蕨窯  
石井町石井字城ノ内1055-3  
TEL 088-674-5186  
陶芸教室/第1・3土曜日・日曜日 (要予約)



# 醤油

# 石井町 訪ね歩きガイドマップ



- 春を感じる桜めぐり
- 藤の花に酔う
- 文化の秋・藍商の歴史にふれる
- 新鮮取れたて野菜を食べよう



人にやさしい健康で生き生きと暮らせるまちづくり

人と自然の調和する美しいまちづくり

人を育み、人が輝く活力あふれるまちづくり

## 第三次石井町総合発展計画 後期基本計画

太陽と緑の田園都市をめざして

本町をとりまく環境は大きく変化しています。私たちは、常に石井町が置かれている現状と課題を正確に認識しながら社会の動きや時代の潮流を的確に把握し、客観的な視点で石井町のあるべき姿、進むべき道を見つめています。

## 石井まち歩きガイド

どのプランも、きっと新しい発見がある魅力的なコースです。

**地福寺**

境内には、紫藤と白藤の藤棚があります。藤まつり期間中(4月下旬～5月上旬)には、藤の盆栽審査会や写真撮影会などのイベントあり。

2.0km ↓

**童学寺**

藤の花を楽しんだ後は、逍遥園も見学しよう。

**藤の花に酔う**

童学寺から帰る前に蕪窯にちょっと寄り道してみよう。お気に入りの食器や花瓶が見つかるかも。

もっと楽しむ

**県立農業大学校**

700m ↓ 「桜トンネル」は県内でも有数の桜名所で見応えあり。

**天堂(森本院)のしだれ桜**

1.3km ↓ 中国風の鐘楼門が目印。東王子神社の近く。

**前山公園**

1.3km ↓ お弁当を持って家族や友達同士でお花見しよう。

**前山林道(地藏峠)頂上**

前山林道の桜並木をウォーキングしたり、下浦の桜並木を見に行くともっと桜を堪能できる。桜の季節以外でも、ウォーキングコースにぴったり。

もっと楽しむ

春を感じる桜めぐり

**1 農産市白鳥**

2.5km ↓

**2 めぐみの里**

800m ↓

**3 酒市場百姓市場**

1.6km ↓

**4 百姓一**

2.5km ↓

**5 石井農産市**

**新鮮取れたて野菜を食べよう**

(国道192号線・徳島市方面から車で移動する場合)

県道30号徳島鴨島線(吉野川市方面)からの場合は⑤→④→③→②→①の順がおすすめ。各産直市の特色を比べるのも楽しい。

もっと楽しむ

**田中家住宅**

600m ↓ 全盛期の藍商の暮らしを学ぼう。

**武知家の藍寝床**

200m ↓ 外観のみの見学。マナーを守って見学しよう。

**天神のイチヨウ**

1.2km ↓ 「イチヨウの乳」といわれる大小の気根が垂れ下がっていて珍しい幹にびっくりするかも。

**矢神のイチヨウ**

那須与一が阿讃山脈の大山寺山から射た矢がこのイチヨウに当たったという伝説がある。

**文化の秋・藍商の歴史にふれる**

時間に余裕があれば、桜間の池跡や市楽の板碑群などの石の文化財も見に行ってみよう。近くに飯尾川公園いいドームもあるよ。

もっと楽しむ



① 中央公民館図書室  
② 幼稚園での英語教育  
③ 職場見学をする小学生  
④ 石井町子ども議会  
⑤ 運動会での騎馬戦  
⑥ マラソン・ウォーキング大会



## 人にやさしい健康で生き生きと暮らせるまちづくり

### 保健 医療 福祉

health  
Medical Care  
Welfare

#### ●保健・福祉・医療の充実

保健／全ての住民が心身とも健やかで、心豊かに生活できる町とするために、住民のライフサイクルを通じて包括的な健康づくり対策を推進し、住民主体で取り組める健康づくりの展開を図っています。

医療／高度化・多様化した医療ニーズに対応し、患者の心身の状況に応じた良質な医療を効率的に提供する体制を医師会と連携して確保します。

介護／介護保険制度の推進のみならず、生活全般の支援や生きがいづくりなど総合的な施策を講じるとともに、介護支援専門員の研修会の実施、サービス事業者に対する指導助言など介護サービスの質的向上を図ります。

地域福祉／障害の有無、年齢等に関わらず、誰もが安心して地域で暮らしていくことができるように住民一人ひとりがノーマライゼーション思想を持ち、

お互いに支え合うことができる地域社会の形成を推進します。

老人福祉／高齢者の増加にもなうニーズの多様化に対し、従来にも増して住民が真に必要なとするサービスの把握に努め、保健、医療、福祉、生涯学習などさまざまな分野における地域資源を幅広く活用した地域ケア体制の確立を図ります。

障害者福祉／障害者及び障害児がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず、住民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に努めます。

児童福祉／安心して子育てができる地域環境の整備を図るため、施設整備を行うとともに、次世代育成支援行動計画に基づき、住民の保育ニーズへの的確な対応を可能とする事業の実施に努めます。



① こどもあいらんど in いい  
② 乳児健診  
③ AEDの使用方を説明する消防職員  
④ 老人体育大会  
⑤ 健康まつりの健康づくりコーナー



## 教育 文化 人権

Education  
Culture  
Human rights

#### ●教育・文化の充実

就学前教育・学校教育／石井町では、就学前教育・学校教育に力を注いでいます。就学前教育では、すべての幼児が心も体も健全に成長することを願って、家庭、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校の交流機会を増やすなど関係機関の連携を強化し、地域ぐるみで教育環境や教育内容の質の向上を図っています。また、学校教育においては、特色のある学校づくりと子どもたちの個性を伸ばすことはもちろんのこと、義務教育後も学び続ける意欲を持つ児童・生徒の育成を行っています。

生涯学習環境の整備／生涯学習は、就学前教育、学校教育、社会教育、文化・スポーツ活

動等のなかで行われる学習行動であり、いつでも、どこでも、だれでもが、ライフステージに合わせて自ら学べる環境づくりが必要です。行政、各種団体、学校、地域、企業などが連携を図り、学習内容の充実、情報ネットワーク化を進め、住民の多様なニーズに即応できる生涯学習の場の確立をめざします。

#### ●人権の尊重

人権の尊重／同和問題をはじめ、女性や障害者、高齢者、外国人等あらゆる差別・偏見が解消されるように人権教育や人権啓発を推進し、すべての立場の人に平等が保障され、幸せな生活を営むことが出来る人権擁護社会の形成をめざします。

# 生活環境

Environment

- ① 文化財防火訓練
- ② 三郎広場（防災センター）
- ③ 県営菅我団地
- ④ 一般廃棄物最終処分場
- ⑤ リサイクルセンター
- ⑥ グリーンセンター
- ⑦ 清掃センター



●生活環境の整備  
生活基盤の整備／健康で文化的な都市生活と機能的な都市活動ができるまちづくりを指して、生活道路の拡張整備を進めるとともに、地域住民の理解・協力のもと、道路清掃など、住みよい居住環境の整備を進めます。また、常に安定した良質の水を確保するため、水質管理の徹底を図るとともに、節水意識の啓発に努めます。

環境衛生／ごみ処理は、住民の快適な生活環境を保全する上で、最も基本的な役割を担っています。これまで私たち生活者は、資源を有効利用するための手段としてごみの分別などのリサイクル（再生利用）を行ってきました。これからは、リデュース（発生抑制）やり

ユース（再使用）にも積極的に取り組みながら、循環型社会を実現させていかなければなりません。そのためごみの減量化、リサイクルについて、住民の意識の啓蒙に努め、自然のサイクルに合わせた資源循環型のまちづくりをめざしています。

防災・防犯／住民の生命や財産を守り、安全な生活環境を確保するため、消防・治水対策を強化し、官民が協働し、住民が安心・安全に暮らしている地域づくりをしていきます。さらに犯罪を未然に防ぐ体制づくりに努力し、防犯への意識を高め、犯罪のない明るいまちをめざします。



- ① 町道石井駅山路線
- ② 前山公園グラウンド
- ③ 石井町水道課庁舎
- ④ 秋の交通安全活動キャンペーン
- ⑤ 情報発信源となるCATV

# 地域社会

Community

人と自然の調和する  
美しいまちづくり

## ●地域社会の基礎的条件の整備

土地利用／美しい自然環境と田園風景を活かした都市基盤の整備にあたり、調和のとれた住みよい豊かなまちづくりを進めるとともに、総合的かつ計画的な土地利用を推進し、町の均質ある発展を図ります。

水利用／水源の確保と水の有効利用を図ります。河川等の浄化を図るとともに、各種団体と連携を図り、河川・斉清掃など美しい河川環境の実現に努めます。

して大きな役割を担っている鉄道、バスについて、公共交通機関としての利便性向上を要請していきます。

交通安全／交通安全施設を整備していくほか、交通規制の的確な実施、交通危険箇所の把握、点検強化を進めるなど安全性追求を図ります。また、住民の交通安全意識の高揚のため、交通安全教育の推進などに取り組めます。

情報通信／ホームページによる情報の共有化、CATV網の多面的利用、地域が一体となった情報ネットワークの利用の検討など、地域の情報提供、享受の体制づくりに努めます。

道路・交通機関の整備／道路橋りょうの新設、改良、舗装、補修を進めるとともに、交通安全を確保するための安全施設の整備、快適で人にやさしい道路環境の形成に努めます。住民の通勤・通学手段と

# 産業振興

Industry Promotion

人を育み、人が輝く活力あふれるまちづくり

## ●産業の振興

農業の振興／米・野菜作りをはじめとして、県下有数の乳牛の飼育、養豚、養鶏など石井町の農業は、米、野菜、酪農などの複合形態をとっています。また県立農業研究所や県立農業大学校などと協力し、バイオテクノロジー、ハイテク施設園芸などの研究成果を取り入れて、石井町の農業にいかしながら変貌、発展しています。工業の振興／行政が主導となり優良企業を積極的に誘致して雇用の場を増やしたり、商工会や、企業と連携をとって地場産業の育成を図るなど工業の発展にも力を注ぎ、若者が地元で働くことができる場所の確保に努めるほか、異業種間の交流を推し進めることに

よって、さらなる産業の発展の可能性を模索していきます。  
商業・観光の振興／地福寺の藤、野鳥の森、弘法大師ゆかりの童学寺、藍屋敷の田中家住宅など、石井町及び周辺部には数多くの歴史遺産が存在し、観光資源には事欠きません。それらを有効にアピールし、観光客の誘致に努めています。また、隣接する地域や他県に流出する消費の流れを食い止めるために、店舗の個性化、専用化、サービス強化などさらに魅力ある商業地をつくり、消費者の確保に努めます。



① 商店の進出が進む県道30号線  
② 高川原工業地域  
③ 農産物品評会  
④ 乳牛・和牛共進会



① ミニタウン集会  
② 住民課窓口  
③ 河野町長（右）、清重教育長（左）  
④ 16名で構成される石井町議会  
⑤ 役場庁舎

# 行財政

Administration

## ●行財政の確立・議会

住民参加／行政計画への住民参加というものはたいへん重要なものです。石井町では行政と住民が一体となって共通の問題意識を持てるよう、住民が行政計画に参加できる環境づくりに努めています。そのためにも住民に開かれたまちづくりをめざし、個人のプライバシーに配慮しつつ、情報の公開、提供できる環境を整備していきます。

行財政運営／市町村が地方分権への対応や少子・高齢化の進展、厳しい財政状況などといった大きな課題を抱える中、将来の行財政の状況を推計した上で、地域の実情に合ったまちづくりを進めていくべきだと考えます。石井町では、できるだけ財源を確保し、その限ら

れた財源の中で、住民にとって真に必要なサービスを提供し、合理的で効率のよい町政運営に努めます。

議会／町議会は、町民の代表である議員16人で構成されており、年4回（3月・6月・9月・12月）開かれる定例会のほか、必要に応じて臨時会も開かれます。また、専門的な立場から調査や審査を行うために3つの常任委員会が設置されているほか、議会運営を効果的に行うための議会運営委員会、特定の事柄について調査や審査を行う特別委員会が設置されています。





## 発刊にあたって

昭和30年3月、1町4村の合併により石井町は誕生し、本年度で町制55年を迎えることができました。

自然環境と比較的温暖な気候に恵まれ、豊かな自然と田園風景を残しながらも、隣接する徳島市のベッドタウンとして様々な開発が行われ発展し続けています。

他の市町村と同様に少子高齢化が進行し、財政状況も非常に厳しい状況にありますが、本町ならではの独自性のある魅力あるまちづくりに取り組み、更なる発展をさせていかなければならないと思っています。

この町勢要覧をご覧になる皆様をとおして、本町への理解を深めていただき、また、よりよいまちづくりへの一層のご支援とご協力をいただければ幸いです。

石井町長 河野 俊明

- 石井町民憲章（昭和57年4月1日制定）
- わたしたちは緑濃い四国山地と水清らかな吉野川との間に開け  
 温かな気候と豊かな自然に恵まれた石井町の人情あふれる町民です  
 わたしたちは先人が残した文化と伝統を受け継ぎ石井町民としての  
 誇りと自覚を持ち愛と誠のある暮らしを日々求めて明るく活力のあ  
 る太陽と緑の田園都市石井町の発展に努めます
- 一、健康で節度ある生活をし明るく円満な家庭をつくります
  - 一、和を大切に安全につとめ楽しく住みよい社会をつくります
  - 一、緑を育て文化を高め美しく清らかな環境をつくります
  - 一、教育を尊び心身を鍛え夢と希望に満ちた郷土をつくります
  - 一、産業を興し経済を発展させ活気あふれる豊かな町をつくります

石井町民憲章（昭和57年4月1日制定）



町の木／いちよう  
(昭和57年6月1日制定)



町の花／藤  
(昭和57年6月1日制定)



町の鳥／うぐいす  
(昭和57年6月1日制定)



## 町章

「石井」の文字を図案化したもので、周囲の円は永遠に輝ける発展を示している。  
(昭和36年6月公募により制定)

## 概要

徳島市の西に隣接し、地形は東西約6キロメートル、南北5.5キロメートルの方形で、面積28.83平方キロメートル。吉野川がもたらした肥沃な平地と標高200メートル前後のなだらかな山地や丘陵地からなり、全面積の約65%が農耕地で、林野は一割にも満たない。昭和30年3月、旧石井町と浦庄・高原・藍畑・高川原村の一町四村が合併して成立。人口26,831人、世帯数9,570世帯。(平成21年2月1日現在)

## 交通

- ・ JR徳島駅から…JR徳島線で約20分。バス・車で約30分。
- ・ 徳島自動車道、藍住又は土成インターチェンジから車で約20分。
- ・ 高松自動車道、板野インターチェンジから車で約30分。
- ・ 徳島空港から車で約45分。

